

令和 5 年度福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

【上田せせらぎ保育園】

令和 6 年 2 月

株式会社 フロネーシス（機構 2 1 - 2 5 9）

## 評点基準

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価します。評点では表現しきれない貴事業所の実態やサービスの質については、講評に記載します。利用者調査には、評点はつきません。

### 評点基準 <カテゴリー1～6>

評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとにつける。  
 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す  
 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。  
 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く

標準項目の定義	東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。
確認方法	標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること

### 評点基準<カテゴリー7>

「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表されます。

確認方法	事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。
------	--

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい子どもの姿（いいあたま、やさしいところ、じょうぶなからだ、がまんづよいこ）</li> <li>・心の教育の充実</li> <li>・安全体制の確立</li> <li>・家庭との連携の大切さ</li> <li>・「あそび、学び」の充実</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが考えて行動する力</li> <li>・子ども、保護者ひとり一人の気持ちに寄添った関わり、対応</li> <li>・臨機応変に対応できる能力</li> <li>・役割(リーダー・係り)等の内容把握や能力発揮</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・子どもたちの命、大事な時期をお預かりしているという自覚と責任感を持ったうえでさいな事柄でも報告・連絡・相談をしっかりと、子どもに対して、保護者に対して、職員間のコミュニケーションをしっかりとる。</p>

調査対象	複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。		
調査方法	ウェブ回答システムを活用。機関が作成したQR記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。		
利用者総数	118		
利用者家族総数(世帯)	105		
共通評価項目による調査対象者数	43		
共通評価項目による調査の有効回答者数	43		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	41.0		

利用者調査全体のコメント

<p>&lt;総合的な満足度&gt; 「満足」 72%、「まあまあ満足」 23%、計 95%という満足度が示された。</p> <p>&lt;調査結果の講評について&gt; ・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。</p>
--

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	41	1	1	0
回答者の95%が「はい」と回答した				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	42	1	0	0
回答者の98%が「はい」と回答した				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	37	5	1	0
回答者の86%が「はい」と回答した				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	31	12	0	0
回答者の72%が「はい」と回答した				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	2	0	8
回答者の76%が「はい」と回答した				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	31	10	1	1
回答者の72%が「はい」と回答した				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	35	7	1	0
回答者の81%が「はい」と回答した				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	36	6	1	0
回答者の83%が「はい」と回答した				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	3	1	0
回答者の91%が「はい」と回答した				
10. 職員の接遇・態度は適切か	38	4	1	0
回答者の88%が「はい」と回答した				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	5	0	0
回答者の88%が「はい」と回答した				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	12	1	6
回答者の56%が「はい」と回答した				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	39	4	0	0
回答者の91%が「はい」と回答した				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	5	1	5
回答者の74%が「はい」と回答した				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	6	1	1
回答者の81%が「はい」と回答した				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	8	1	3
回答者の72%が「はい」と回答した				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	27	10	2	4
回答者の63%が「はい」と回答した				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	
○非該当		
カテゴリ1の講評		
<p>理念や方針、目標について職員間での共通理解を促進している</p> <p>新年度の体制が確定した年度末や、新年度の当初に、職員に対し基本方針を伝えている。保育理念、保育方針、そして「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から導き出した4つの約束などを中心に、職員全体での共有を図っている。理念、方針、ビジョンなどは一方的に紙面のみで伝えるのではなく、できる限り顔を合わせて伝えるように努めている。毎月の会議でも園長が園の方針を話し、共有に努めている。職員との相互理解を深めるため、個別の面談や話す機会を積極的に多く取りようにし、日頃からチームワークの充実に取り組んでいる。</p> <p>組織として会議の持ち方や周知、決定の仕組みを定めている</p> <p>年度途中で体制が変わったため、まずは基盤作りに取り組んだ。重要な案件に関する会議の持ち方も再確認してきた。職員会議、リーダー会議、給食会議、乳児会議、幼児会議、行事会議等の各会議の中で、職員同士が自由に思ったことを発言して意見交換できる環境、雰囲気を整えることが必要だと考えた。全体会議は全員が出られるように時間を設けている。今年度途中から導入した昼礼のほか、午睡時間を上手く使って少しずつ話し合いの時間を確保するなど工夫している。全職員が適切に情報共有できるための仕組みを構築し、それが浸透してきている。</p> <p>決定と周知のプロセスを確立し運用している</p> <p>理事会で決定した内容など、重要な案件については、法人本部による発信により組織内での周知徹底を図っている。当該決定の意図や背景、経緯などについては、なるべく早いタイミングで職員に周知している。保護者に対しては、アプリを活用して発信したり、必要に応じて掲示したり、手紙の配布やホームページへの掲載などにより、決定の内容・状況・経緯を伝えている。</p>		

カテゴリー2	
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行
サブカテゴリー1(2-1)	
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>6/6</b>	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
評点(000000)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している
○非該当	
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している
○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している
○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している
○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)	
実践的な計画策定に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	
評点(000)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している
○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている
○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる	
評点(00)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している
○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
○非該当	
カテゴリー2の講評	
<p>課題抽出の前提となる情報の収集やニーズの分析を積み重ねている</p> <p>日々のコミュニケーションを通して、運営・保育に対する保護者の意向の把握に努めている。行事後に行うアンケートも活用している。職員については、会議や面談などを通して意向や意見を把握している。地域福祉の現状については、家庭支援センターや療育センターとの連携、日野市の要請を受けた緊急1歳児受入事業などの実践を通して、情報の収集・ニーズの把握を行っている。当法人が日野市、町田市、横浜市に複数園を運営しているので、各市町村の動向や各園の「取り組み」や「工夫していること」などの情報を共有している。</p> <p>中期計画に位置付けた重点課題の取り組みを継続している</p> <p>中期計画に掲げた重点課題である①安定した職員雇用、②保育の質の向上、③危機管理や安全管理の徹底、④施設整備の強化、⑤財務の安定化、⑥地域ニーズの把握などについては、継続して取り組んでいる。中期の自己評価チェック表に入力し、面談を行い、下期の目標について話し合っている。主任、副主任、リーダーには各々の役職と職務内容、役割を当人にはっきりと伝えている。今年度から新体制となり、まだ手探りの状態である。今後は、他の職員にも組織としての方向性や経営層やリーダー層の役割について明確にし、伝える必要があると考えている。</p> <p>計画の推進にあたり進捗を確認して必要に応じ、見直ししながら取り組みを進めている</p> <p>新たな体制の下、キャリアパス制度を整備し、各職責を明確化することで、園の理念やビジョンの実現に向けた業務の遂行体制を整えている。求められる役割や責任、業務、知っておいてほしい専門知識・保育実践に必要な技術、求められる能力・取り組み姿勢など、リーダー層の意識を高め、職員全体が事業所の根幹を理解し、計画の推進を担うことを目指している。事業所が目指している内容について、今年度は園内研修を通して職員間で共有しながら学び合っている。</p>	



3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリ3の講評

#### 業務の遂行上職員が心得ておくべき事柄を明確化し浸透を図っている

法人組織の一員として遵守すべき各種規程類のほか、職員の組織人・福祉に従事する者としての責務や心構えを定めている(職員の心得)。これにより、園の保育・教育理念、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から導き出した4つの約束、23項目にわたる保育の心得、業務の各場面における留意事項、保護者対応のポイントなどを明確化し、共通認識を図っている。また、研修では、保育の理念・方針、4つの約束について深く理解し、日々の実践の中で意識していけるよう取り組んでいる。

#### 苦情への真摯な対応、虐待防止への学びの促進などを行っている

保護者からの意見や要望、苦情に適切に対応していくため、苦情解決責任者(園長)、苦情受付責任者(主任)を配置し、第三者委員を設置している。そして、保護者や近隣の方から寄せられる苦情について、日時や状況、内容を記録し、園の対応プロセスに則った解決を図っている。虐待防止への組織的な対応としては、対応の心構えや留意事項をまとめている(虐待防止マニュアル)。これらは、非常勤職員にも内容を伝え共有している。また、虐待防止のチェックリストも活用し様々な事例をグループで話し発表し合う取り組みも行っている。

#### 地域のニーズを踏まえた支援や交流を行っている

一時預かり保育や園庭開放など、地域の子育て世帯の受け入れや交流機会の提供など、支援を行う体制を整えている。また、市の要請に応える形で、緊急1歳児枠の受け入れ(緊急1歳児受入事業)も実施し、待機児童対策に貢献している。地域のネットワークとしては、日野市の園長会、子ども発達支援センターの研修や地域ネットワーク会議にも積極的に参加している。幼保小の連携では、近隣小学校や学童保育と関わる中で年長児の交流も行われている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評		
<p><b>各分野の非常時に備えた体制を確立している</b></p> <p>危機管理や安全管理、衛生・保健、防犯などの各分野における対応について、主な担当者を配置し、予防と発生時の迅速かつ円滑な対応に備えている。危機管理については、危機における指示命令の系統を明確化し、地震や火災、風水害、事故などにおける的確な対応の手順を定め、それらの内容を確認している。地震や水害などに対しては事業継続計画も策定し、子どもの命を守る体制作りを行っている。職員の安全な帰宅もその確保を図っている(災害時における時差退社計画)。新たな体制となったため、これらの見直しとさらなる充実を図って行く方針である。</p> <p><b>日々の安全の確保、安心な施設環境の維持に取り組んでいる</b></p> <p>安全な施設運営を行っていくために、様々なリスクを踏まえた対応手順を定めている(各種マニュアル)。研修でも、救急救命や応急手当、嘔吐処理などについて学んでいる。日常的に起こりうる事故や事故に至らない事例(ヒヤリハット)については、①噛みつき、②ひっかき、③擦り傷、④切り傷、⑤打撲、⑥異物、⑦鼻血、⑧その他などに分類して原因や部位、対処、記入者、保護者への報告者まで記録し、総括している。個々の事例については報告書を作成し、状況の確認、原因の分析、対応策の検討、適切な対処までの一貫した流れに沿って対応している。</p> <p><b>実用的なマニュアルを定め、個人情報の適切な管理を図っている</b></p> <p>法人・園として、子ども・保護者に関する個人情報の取り扱いについて、個人情報保護法などの趣旨に基づいて管理体制を定めている。特に個人情報保護マニュアルでは、文書ごとの取り扱いルールを定め、適切な管理や保管時の注意、事故予防策まで特定している。職員は秘密情報の在職中・退職後の保持について誓約書を法人理事長に提出し、守秘義務の確認を行っている。導入したアプリやパソコンを利用した情報管理にはアクセス権限の設定などにより漏洩防止を図っている。各種マニュアルの見直し、周知、共有が今後の課題である。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

#### カテゴリ5の講評

##### 組織力の向上に向けて職員の意識の向上を図り、意見を発信できる環境を作る

チームワークを構築できるよう、検討事項がある場合など、クラス単位、乳児、幼児で意見をまとめる機会を設け、その上で全体の意思決定ができるよう取り組んでいる。「職員一人ひとりの日頃の気づき」を職員会議や各種会議で提起し、話し合いより良い業務へとつなげている。各職員が納得した上で行動できるように、時間をかけてコミュニケーションを構築することが、組織力の向上に欠かせないことだと感じている。

##### 個々の成長支援が、組織としての理念・方針の追求に結び付いている

複数の職員階層に応じて、求められる役割や責任、業務、知っておいてほしい専門知識・保育実践に必要な技術、求められる能力・取り組み姿勢を明確化している。キャリアパスと連動した人材育成計画について、制度の概要や職務分野別リーダーの責務と役割などについて改めて職員との共通理解を図りながら進めたい考えである。意向調査期間の面談だけでなく、可能な限り、個別で話し合う時間を設け、丁寧に話を聴き、状況によってはクラス、リーダー、主任、園長を交えて話し合いを行い、職員の意識や気持ちの把握に努めている。

##### 研修による学びを組織の成長につなげている

年間研修計画を策定し、子どもの命を守るために優先的な救命救急、保育に不可欠の要素である人権や障害受容、成長の見通しとしてのキャリアアップなど、多様なテーマで学ぶ機会を設定している。今年度はチームワーク向上をテーマに新たにコンセンサスゲームを取り入れて実施した。また、オンライン研修の受講を含め、費用や時間が職務として保障され受講できる仕組みがある。研修の成果や日々の気づきは職員全体で共有し、組織としての向上につなげている。個別の育成計画は今後整えていくことを課題としている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

姉妹園の開所に伴い、職員が異動して以降今年度途中までの間、園長を含む職員の異動が続き、人員が定着せず、安定した組織作りが難しい時期が続いた。園長と職員の入れ替わりが続く中、コロナ禍での行事の持ち方、保護者の参加方法を考えることが大きな課題となった。コロナ禍と重なった状況に応じた対策を検討し、組織の強化も課題とし、運営に反映するため取り組みを考えた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職人体制の安定は、事業の継続性や安定性の基礎であり、保育の質の向上を図っていく上での前提である。異動や退職に加えて新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応に迫られたことは、活用や取り組みに大きな制約があったことが容易に推察できる。こうした困難な状況の中にあって、全体的な計画をリーダー層と確認して見直しを行い、各クラスへ周知して、それを具体的な保育計画の作成に活用し、意識を持って保育に当るようにしてきた。行事や、保育の実施に当り、それまでの実施方法やねらいなども振り返りながら、コロナ禍での配慮事項、あり方など改めて状況に合わせてその都度検討・見直しを行い、全職員への周知につなげた。保護者の協力も仰ぎながら、できる限りの範囲内で目標を設定し、行事や保育を理念に基づき行うよう努力した。こうしたことは、今後の取り組みに向けた確かな自信となり、方向性を示したと考えられる。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

不審者対応や安全点検、セキュリティに対する見直しをその都度行い、管理体制の確立につなげることを目指し、各分野における留意事項に対応手順をマニュアルとして明確化した。そして、危険箇所などの確認を行い、少しずつ安全体制の確立を図り、こうした取り組みについて振り返りと安全点検を行うこととし、今回は、安全体制の課題が毎年出ている不審者を想定した対策について見直しを行った。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもの命にかかわる安全管理への取り組みについては、体制作りの主な担当者の決定、各分野における対応手順の明確化など、大きな成果が見取れる。終わりのない課題ではあるが、地震や水害などに対しては事業継続計画も策定し、非常時において事業の継続性図っていく道筋をつけている。今年度は不審者対応の対策として、保護者カードの携帯の協力を求めた。不審者発見、避難の際の合い言葉を全職員が確認したことに加えて、状況別避難方法の確認も行った。警察署員の協力で実際に不審者訓練を行い、園内研修にてさすまの使用方法の確認、防犯ブザーや催涙スプレーの購入、各クラスへの配布や携帯などを通して安全体制の強化につながった。今後も安全管理を強化する取り組みは、園の基盤となるものであり、継続して取り組むべき課題と思われる。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>サービスを選択するため園の情報を利用者に届くようにわかりやすく提供している</p> <p>園のホームページやパンフレット、園外掲示板、行政公式ホームページ、広報誌等を通し園の情報を公開している。より分かりやすく情報提供できるように、今年度は園のホームページのリニューアルに取り組んでいる。本園の目的・保育理念・保育方針・保育の目標をはじめとし、園児たちの一日、年間行事、保護者ページを公開している。園紹介の動画をアップし、視覚的・聴覚的な情報提供を行い来園できなくても園の様子を見てもらえる内容になっている。</p> <p>近隣の子育て中の保護者を支援するための園の取り組みを紹介している</p> <p>園では子育て支援事業として、一時保育と子育て広場を展開している。育児相談、育児講座にも対応しており、一時保育たんぼ組では在園児以外の子どもを有料でお預かりし、在園児と一緒に遊びや制作を経験している。子育て広場のどんぐり広場は登録制で、予め予約された方が、本の読み聞かせ、手遊び、自由あそびを体験、園の活動に参加している。園庭開放は毎週定期的に開催している。</p> <p>園の見学は個別の状況に応じて実施している</p> <p>園の見学希望について、電話対応のご案内はもちろん、直接来園して見学を希望している方に関しては、毎週水曜日に見学を定期開催している。日程の都合が悪い場合は、その方の希望や状況に応じて相談しながら可能な範囲で調整して個別に対応している。当日は園のしおりなどを配付して園の概要を話し、実際に保育の様子を見てもらいながら保育の考え方を丁寧に伝え、安心して園の選択ができるようにしている。</p>		



サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p><b>入園前の面談時には園の概要やお願い事などを丁寧に説明し保護者の協力を得ている</b></p> <p>入園が決定した家庭には事前説明や面談を行い、重要事項説明書に沿って読み合わせ、保育時間、保育料・諸費用、保育の内容、年間行事予定、個人情報の取り扱い、緊急対応、相談・苦情の対応について、お願いなどを説明し、理解と同意を得ている。入園のしおりに記載の内容についても同意書に署名・捺印して頂き、個人情報保護誓約書、個人情報使用承諾書にも署名・捺印して頂いている。子どもの写真の取り扱いは年度初めに保護者に確認して同意書を提出して頂き、ビデオは保護者の了解のもと撮影している。</p> <p><b>子どもや保護者の情報を確実に入手し、安心して園生活が始められるよう配慮している</b></p> <p>入園前に児童票、入園児発育状況調査票、喫食状況確認表、健康カード、緊急対応に必要な書類等を配布し、それらの内容をもとに保護者・子どもと面談を実施して保育に必要な個別事情や要望を把握するようにしている。食物アレルギーのある場合や、その他体質や配慮を必要としているなど、情報は会議で全職員に周知している。保護者の不安や心配の声を受け止めながら、不安やストレスができるだけ軽減され、子どもや保護者にとって無理なく園での生活が送れるように園生活の見通しを具体的に伝え、慣らし保育を行っている。</p> <p><b>退園、転園や卒園の子どもや保護者の不安が軽減できるよう支援の継続に努めている</b></p> <p>卒園や退園の際には、保護者からの不安や相談に耳を傾けている。不安が見られる園児には個別に声を掛けて関わりをもちながら不安の軽減につなげている。卒園後も園行事に招待して交流を持つ機会を設けたり、退園する際にはメッセージカードを渡したりしている。必要に応じて家庭支援センターや小学校などの関係機関にも連絡を取り、支援を行っている。就学の際には、就学支援シートや保育要録が卒園前に入学予定校に手渡しまたは送付するなど、支援の継続性に配慮している。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<b>子ども一人ひとりの状況に合わせ、保護者の思いに寄り添う丁寧な保育を実践している</b> 年度末から次年度の全体的な計画の内容を決め、行事などを踏まえて年間、月案、週案など養護と教育に分類し活動を整理して作成している。発育状況調査票、健康カードの記録から子どもの生活状況や発育や発達、健康状態を把握し、日々の関わりや連絡帳から保護者の意向や心配していることなどを受け止め計画に反映している。乳児クラスと気になる子ども・保護者に関しては個人記録(2歳児まで・支援児・障害児のための個人月案)を作成している。連絡帳や口頭で気になるケースが見られた場合は、園長、主任、担任で検討できる限り即日対応している。		
<b>子どもの発達、成長を捉え必要な情報を適切に記録している</b> 児童票や月案、発達記録だけでなく、内容や状況に応じて必要書類を作成している。月案、週案は各担当者が作成したものを主任、園長がチェックして過不足の指摘や的確な支援ができるよう助言している。保育日誌、指導計画の振り返りで記録を取り、子どもの姿がどのように推移したのかが分かるようにしている。発達支援が必要なケースでは、さらに細やかな計画を作成し、子どもの育ちをきちんと捉えた支援ができるように記録し指導計画につなげている。		
<b>保護者に指導計画を伝え、子どもや保護者に関する情報を職員全員で共有している</b> 年度の始めに懇談会を行い、一年間の計画や目標を保護者に伝えている。毎月のねらいや子ども達の姿は連絡帳やクラスだよりなどで知らせている。家庭状況については年度始めに内容を確認し、年度途中であっても都度更新して正しい情報を管理している。日々の伝達事項は口頭だけでなく、アプリの項目にも入力して漏れのないように注意している。毎日の昼礼での申し送りなどは、共有ノートを常設し、必ず目を通してから保育室へ行く流れの定着を目指している。子どもや保護者の状況に関する情報は非常勤職員を含め子どもに関わる全職員で共有している。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p><b>子どものプライバシーの保護に配慮した保育を行っている</b>  入園時に重要事項説明書の中で個人情報の取り扱いについて保護者に説明して個人情報保護誓約書で同意を得ている。子どもの名前や写真掲示、ホームページなどへの写真や映像の公開についても意向を確認している。外部とやり取りをする必要な生じた場合は、その都度保護者へ確認をしてから応じるようにしている。園運営に関する書類については、鍵付き引き出しや事務室の鍵付書庫で保管しており、持ち出しについて細心の注意をしている。職員は事務室で閲覧可能で、終業後は施錠し園長が厳重に管理している。</p> <p><b>子どもと保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけている</b>  子どもに対して傷つくような口調、言葉は使わない。他の子どもや全体の前で必要以上に叱らない。着替えなどでは、カーテンや衝立で他からの視線を避ける。おむつ交換の際には、交換台が他人の目に触れないよう配置するなど、子ども一人ひとりの羞恥心に配慮した支援を実施している。一斉活動にこだわらず、「皆と同じ」を強いないように保育を行っている。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行うため、保護者支援の「多様性」については、さらに職員で話し合い、支援の在り方について考え、意識を統一を図ることが必要だと感じている。</p> <p><b>虐待防止の取り組みや具体的な支援について職員の理解を深めている</b>  虐待はゼロでなければならないことを強調し、虐待防止の徹底を図っている。子どもや保護者に対する「人権」について疑問、反省、課題の事例が生じた場合は、早急に職員間で話し合う時間を設けている。保護者の表情や仕草等小さなサインを見逃さず、保護者の子育ての不安や気がかりについても傾聴して育児困難や虐待防止への支援を実施している。虐待防止について園内研修で職員全員が学び合っている。虐待チェックシートも使い、気になる子どもに対しては園長が対応し情報を職員間で共有し、必要に応じて行政や関係機関と連携している。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>毎年見直しされている各種マニュアルへの理解を深め、いつでも活用できるようにする</p> <p>基本的にマニュアルは、年度末に定期的な見直しを行っている。現状に合わせて社会の動向を注視し、制度や省令の変更等を鑑みながら必要に応じて法人の理事長や姉妹園とも相談の上で見直し、迅速な対応が必要な場合は適宜対応をしている。園は安全管理の手引き書として「せせらぎマニュアル」を作成し、内容を明確化して保育実践に活かしている。外部と協力して警察署員による交通安全教室や実践型の不審者対策訓練の実施や、消防署職員による指導から応急手当を学び、看護師からは嘔吐処理やエビベン使用方法等を学んでいる。</p> <p>保護者・職員の意見を反映させてサービス向上の為の業務改善に取り組んでいる</p> <p>各マニュアルは事務所に常置しており、いつでも閲覧が可能となっており、保育業務の実践や点検でわからない事があれば先輩職員から気兼ねなく教えてもらえる体制が整っている。園では日常の保育業務や行事などについて、保護者からの意見・要望、そして職員からの提案などを真摯に受けとめ共有し、子どもの様子から反省や改善を検討して見直している。主任・園長が中心となり保護者や職員との個別対応を積極的に行い、各々の意見や提案を受け止めている。副主任やリーダーも業務水準の見直しに関わる環境作りに引き続き取り組んで行く方針である。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(〇〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの状況を把握し職員全員で子どもの育ちを支援している</p> <p>日頃のコミュニケーションから保護者との信頼関係を構築し、子どもの育ちを共有した支援をすることを大切にしている。新入児は面談や入園児発育状況調査票等、進級児は指導計画の振り返りや児童票等の子どもに関する記録を基に集団生活の中で、子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境を考え保育計画や個々の接し方に繋いでいる。成長過程で起こりやすいトラブルについては、子どもの思いに寄り添いながら自分の気持ちを伝えたり、時には代弁したり子どもの気持ちを尊重した対応を心掛け、その情報を職員間で必ず共有している。</p> <p>生活やあそびの中で子どもが主体的に取り組める環境を整えている</p> <p>一人ひとりの子どもが様々な事柄に関心を持てるよう関わっている。自然の事象や地域の方と触れ合い、子どもが自由に手に取り、自分で選んで遊べるような玩具やコーナー遊びなどの環境を設けている。年齢、発達に合わせた環境作りを行い、身の回りの様々なことへの興味や関心を育てている。ひとりでじっくりと遊べる場や友だちと一緒に遊べる場の両方を整え、子ども自身が主体的に関わりながら好きな遊びを選び、楽しめるように工夫をしている。</p> <p>特別な配慮が必要な子ども一人ひとりの発達の状態に合わせた保育や援助を行っている</p> <p>今年度よりケース会議を取り入れ、定期的開催している。子どもへの関わり方をディスカッションしたり、職員同士の思いを活かしながら共通認識として一貫した対応が取れるようにしたいと考え取り組んでいる。ケース会議を実施することで、自らのクラスに捉われることなく、園全体で該当児を見守れるよう進めている。巡回相談では心理士から専門的な助言を受けている。指導計画、加配日誌等を個別に作成し、各関係機関との連携や保護者との情報共有もまめに行い、より良い保育を実践し他の子どもとの生活を通して成長できるよう援助している。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○ 非該当
評価項目2の講評				
<p><b>登園時には家庭での子どもの様子を丁寧に確認し、その日の保育に繋いでいる</b></p> <p>今年度途中から全クラスアプリを導入している。登園時には、アプリ(ルクミー)の家庭連絡の入力を確認してから保育の受け入れを行っている。保護者との会話を交え、前夜の様子等を伺い、子どもの顔つき、顔色やけが、傷、湿疹等の異常がないか観察し視診を行う。アプリ導入後は、手書きの時よりも詳しく家庭の様子を記載していくケースも増えている。送迎の際の引継ぎ等がスムーズになり、個人情報への渡り間違いや連絡の伝達漏れも少なくなった。保護者の負担軽減にも繋がっていると感じている。</p> <p><b>家庭と園の連続性を大切に、基本的な生活習慣の習得に取り組んでいる</b></p> <p>園では、保護者から家庭での様子や意向を十分に聞き、連携を取りながら子どもの発達に合わせた基本的な生活習慣の自立に働きかけ、自信を持って生活できるように見守っている。生活リズムについて、年齢発達や見通しを保護者に伝え、園と家庭とが一緒に進められるようにきめ細かい援助をしている。午睡を含む休息の長さや時間帯は子どもの状況に合わせて対応して、午睡チェックで安全にも配慮している。1歳児クラスにおいては、2グループに分けた保育を実施し、一人ひとりに目が届きやすく、おむつ替え、食事、午睡が丁寧にできるように取り組んでいる。</p> <p><b>その日の子どもの園での生活の様子を確実に伝えている</b></p> <p>降園時は、体調やけがの内容だけでなく、一日の様子を可能な範囲で口頭でも伝えるようにしている。当番の時間帯で担任が直接伝えることが難しい場合には、アプリを活用したり電話入れを行っている。個々の子どもの配慮する点等を全職員が共通認識し、同じ対応ができるように状況を細かく確認している。連絡事項の内容により担任が直接伝えた方が良い場合は体制を取り、場合によっては主任や園長も対応している。全職員が伝達不足から生じる誤解のリスクを減らすよう注意しながら保育を行っている。</p>				
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○ 非該当
評価項目3の講評				
<p><b>子どもの自発性を尊重した環境作りに配慮した支援をしている</b></p> <p>子どもの発達や興味・関心に合わせた遊具、教材を準備している。サークルやパーティションを設置してコーナー分けすることで、自分の好きな遊びを楽しめるようにしている。遊びに必要なスペースを見極め、空間を保障するなど環境構成を工夫している。複数の遊びから選択できるように設定することで、意欲的に遊びに向えるようにしている。友達と一緒に遊び、協力して取り組むことで遊びが広がるような支援をしている。</p> <p><b>言語力、表現力の豊かな発達を子どもが楽しみながら習得できるよう取り組んでいる</b></p> <p>子どもと信頼関係を築きながら、応答的な関わりを通じて言葉に関する感覚を養えるようにしている。乳児期は、ゆったりと見守りながら、子どもからの発信をきちんと受け止め、一人ひとりの思いを十分に聞き子どもが安心して自分の気持ちを出せるようにしている。毎日の挨拶や感謝の言葉等は大人が見本となるように心がけ、子ども同士のやり取りの見守りや絵本の読み聞かせ、うたあそび、手遊び等も取り入れ楽しんでいる。幼児期は当番活動や発表の機会を設けて、聞く姿勢や言葉による伝え合いを楽しむ経験ができるようにしている。</p> <p><b>戸外や園外での様々な経験を通して、自身の気持ちを調整できる保育を実践している</b></p> <p>集団ゲームやルールのある遊びを取り入れることで「守ると楽しい」「守らないと成立しない」ことを知り、きまりを守る大切さや自分の気持ちを調整する力を養えるよう配慮している。散歩や園内で季節の野菜等の栽培を通して土や草花、虫など様々な自然に触れ、自然現象に興味を持ち季節の移り変わりにも気づくことができている。園バスを使用してバスハイクや系列園との交流等も行っている。日々の生活や遊び、行事等を通じて、きまりの大切さに気がついたり、子どもの豊かな成長、発達に結びつく経験が展開されるよう工夫した保育を実践している。</p>				

4 評価項目4		日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価		標準項目			
● あり ○ なし		1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当	
● あり ○ なし		2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当	
● あり ○ なし		3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当	
評価項目4の講評					
<p>日常保育に変化と潤いを持たせるよう行事を上手に取り入れている</p> <p>行事は、子ども達が興味や関心を持って自ら進んで参加できるよう計画している。特に伝統的な日本文化を伝える伝承行事や季節毎の行事を大切に考え実施している。七夕では保護者の方にも一緒に短冊に願い事を書いて飾り、節分では鬼も登場して豆まきを行い春の訪れを喜び合っている。他にも水遊び、お泊まり保育、遠足、芋ほり、クリスマス会、もちつき、ひな祭り等行事を上手に取り入れることで子どもの経験を豊かにしている。入園、卒園式で節目を祝い、発表会は一年間の子どもたちが成長を確かめ合う等、皆が喜びを味わえる行事を実施している。</p> <p>園の行事を理解し、子どもや職員と関わり、育ちを喜び合える行事を実施している</p> <p>行事は、子どもの姿を見てもらい成長を認め合う良い機会のひとつであり、日頃の保育の延長線上にあるものとしている。園では当日の姿をだけを評価するのではなく、それまでの取り組みや経過を大事にしたいと考え、行事のための練習が主な保育とならないようにし、子ども達が無理なく楽しんで参加できるように職員が意識して進めている。夕涼み会、運動会、発表会等保護者参加の行事については、事前のおたよりやお知らせで演目の内容やお願い事項を伝えている。保護者に園の行事の取り組みを理解してもらい、豊かな育ちを共有できるようにしている。</p> <p>行事について保護者の理解を得ながら、子どもが意欲的に取り組めるよう工夫している</p> <p>近年は、コロナ禍で全員と一緒に集まることが難しくなり、保護者の参加制限を設ける等工夫して行事を継続してきた。年間行事日程表は年度当初に保護者に配付して保護者懇談会等で行事の内容を説明している。行事前には園だよりやクラスだよりで子ども達の取り組みの様子を知らせ、楽しみが持てるようにしてきた。保護者と行事を通して子どもの成長を共有し、クラスの保育内容への理解を得られるよう努めている。コロナ後となるこれからの行事の持ち方や進め方については、子どもにとって何が大切かを全職員が考え検討する方針である。</p>					
5 評価項目5		保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価		標準項目			
● あり ○ なし		1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当	
● あり ○ なし		2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当	
評価項目5の講評					
<p>日中と違う環境や遊びを工夫して、子どもが落ち着いて過ごせるようにしている</p> <p>朝、夕は合同保育を実施し、人数やメンバーによって遊びの選択や設定に配慮し安心して過せるようにしている。日中の保育とは違う玩具を用意し雰囲気を変えるなど、楽しみにつながるよう工夫している。延長保育の部屋を乳児室にすることで乳児が慣れた環境で落ち着いて過せるようにしている。保育時間の長い子どもには特に休息を意識し、お迎え時間により補食、夕食を提供している。ゆったりとした雰囲気の中で関わりを深め、年上児への憧れや親しみを持ち、年下児の面倒を見る等、異年齢の子ども達が一緒に遊ぶ姿が自然に育まれている。</p> <p>子どもの様子を共有して、職員が連携を取りながら保育を進めている</p> <p>一日を通して子どもが安心して過ごせるように配慮している。申し送り・引継ぎ事項、送迎時間や子どもの姿で気づいたことは昼礼でも確認し、アプリを利用して記録し全職員が確認できるようにしている。お迎え時には、担任からの伝言や子どものエピソードも漏れなく伝えるよう努めている。保育補助として子どもと関わる機会が多い非常勤職員は、巡回相談やクラスの会議に参画することもあり、保育に必要な情報を共有しながら連携を取っている。今後さらに子どもや保護者の状況について全職員で理解と意識を深め、保育を進めていきたい意向である。</p>					

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p><b>食べる事に集中できるよう落ち着いた環境を提供している</b>  食育年間計画を作成し計画に沿って食育を進めている。子どもの発達に合ったテーブルと椅子を用意して、落ち着いた雰囲気の中で食事が進められるよう環境を整えている。乳児は、食事介助の中で声をかけをし、職員が側に付き決まった場所で安心して食べる事ができるように配慮している。幼児は、献立の確認やマナーの確認等しながら子ども達が意識を持ち、楽しく食事ができるようにしている。毎月の給食会議で、各クラスの保育者を含め献立の振り返りを行っている。食への関心を園全体で高めて行くことが課題と考えている。</p> <p><b>季節を感じるサイクルメニューで様々な食材に慣れ親しんでいる</b>  献立は、季節を感じる食材を中心に取り入れたサイクルメニューを提供している。子どもは同じ食材でも味や見た目が変わっただけでも警戒しがちになってしまうため、サイクルメニューで複数回目にしたり口にしたり匂いを嗅いだりする事で味や食材に慣れて安心して食べる姿が見られている。味付けは薄味を意識しているが、夏場は少しだけ塩分を高くし熱中症対策を講じるなど、季節や状況を考え工夫している。給食室の職員が実際に保育室に行き、喫食状況を見たり、配膳を行ったりすることで子どもの様子を保育者と共有ができています。</p> <p><b>様々な食育活動を通して食べる事に興味関心を持っている</b>  食物アレルギーのある子どもに対しては医師の指示に従い除去食を提供している。個別献立を作成し保護者が内容を確認して承諾印を押している。配膳時にも目視チェックを行い誤食を防ぎ、安全に提供できるように細心の注意をしている。保護者に食への興味関心を持ってもらうため、食育だよりに旬の食材や食に関するアドバイスを掲載している。季節の野菜など園内の花壇に直植え栽培を取り入れたり、地域の畑で芋掘りの体験をしたり、野菜ちぎりなど様々な食育活動を取り入れている。楽しみながら意欲的に食について興味を持つことができる環境がある。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p><b>子どもが自分の健康や身の回りの安全への習慣が身につくよう保育の中で働きかけている</b>  看護師は、日常の保育の中で安全衛生について注意喚起し危険を知らせている。汚物処理の手順や感染症予防についてや、ダイアップ、エビペンの預かりなどについて職員研修を行い周知して、いつでも対応できるよう備えている。子どもの急な体調の変化やけがに対応する連絡方法や状況に応じて通院対応する仕組みも備えている。子ども自身も安全な行動が身につくように、実際の散歩で交通ルールや道路の危険な箇所、よそ見やおしゃべりをしないで歩くなど、年齢毎に具体的な注意点について繰り返し伝えている。毎月の避難訓練も実施している。</p> <p><b>子どもの安全・健康に関する対応について連携や体制の備えがある</b>  安全・健康に関することは、看護師が中心となり子ども達への注意して、職員との情報共有に努めている。保育室内は温度・湿度に配慮し、2箇所以上を開放して実施する換気、玩具の消毒など快適な生活空間を整えている。こまめな水分補給を実施し、夏場は食事で塩分不足にも配慮している。内科健診、歯科健診も定期的に行われている。健診以外でも子どもの健康状態の相談、職員の健康や感染症の情報について共有し、嘱託医からのアドバイスを受けている。乳幼児突然死症候群(SIDS)予防として毎日、睡眠時の呼吸チェックを実施している。</p> <p><b>子どもの健康を守るため保護者へ情報発信をして共有している</b>  入園面接や進級時に配付しているしおりで感染症や保健関係について保護者に説明している。熱中症、食中毒、感染症、季節に伴う健康管理など保健や健康に関する情報を都度発信し、新型コロナウイルス感染症対策など、迅速な情報提供に努めている。園で感染症の発症が疑われる場合は速やかにアプリで配信し、園内掲示等で周知している。予防と拡大防止を考え、地域の情報も伝えている。保健だよりは毎月発行し、前月の園の様子、欠席状況、季節的な感染症症状や対処方法、乳幼児突然死症候群の危険、家庭内での事故などのトピックスを掲載している。</p>			



8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○ 非該当
評価項目8の講評			
<p>家庭の個々の事情を理解し受けとめ、柔軟な姿勢で家庭保育を支援している</p> <p>決められた保育時間の中で保育を行うことを基本としつつ、保護者の様々な事情や生活習慣、価値観を踏まえ、園では家庭での生活や保護者の価値観を理解し否定することなく子育てを支援している。送迎時など日頃から園長、主任、担任が保護者に積極的に話しかけ、コミュニケーションを取り関係性の向上に努めている。様子が気になる保護者に対しては個人面談等、個別の対応をしている。子どもの様子を丁寧に伝え合い就労だけでなく心身、精神面も考慮してできる範囲で受け入れ、園に対して保護者が要望を言える信頼関係をより深めて行きたいと考えている。</p> <p>様々な方法で、保護者と園が子どもを真ん中にした関わりを実施している</p> <p>アプリを使って、写真掲載し日々の保育の様子を知らせたり、送迎時のコミュニケーションに加えて連絡や、やり取りができたアプリを活用している。保護者と、送迎時に情報共有が難しい場合には、引き続き帰園後に「電話入れ」を行い、家庭との情報共有に努めている。これまでの保育参観を保育参加に変えママ先生、パパ先生と称して保育に入りながら子どもの様子を見てもらう体験型にして実施している。自分の子どもだけに注目するのではなく、他の子どもとの関わりや保育者の動きを体感することでより園の保育への理解を深めてもらいたい考えである。</p> <p>保護者会では、保護者同士が交流できるよう配慮している</p> <p>夕涼み会、運動会、せせらぎフェスタなど、保護者同士が交流できる機会を設けている。年2回のクラス懇談会では保育内容を伝える他に懇談の時間を設け、保護者同士が顔を合わせ知り合うことができるようにしている。互いにつながりを持つ機会であることを考え、会の持ち方や役割にも配慮しながら、会を進行している。懇談会は子育ての話題で発見や不安、悩みなどを共有できる場であり、自分だけではなく、みんなも同じように悩んでいる事を知ると安心できるなど、保護者の養育力向上と子育て支援のひとつとして役割を果たしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○ 非該当
評価項目9の講評			
<p>戸外活動やバスハイク等の様々な体験を通して生活の幅を広げている</p> <p>園の近くには自然に恵まれ、散歩するだけで季節が感じられる環境がある。草、花や虫を探したり、身近な自然に触れ楽しんで。天気の良い日にはクラス毎、月齢に応じてバギーや手繋ぎ歩行で出かけ、近くの方と自然な挨拶を交わしている。2歳児以上は法人運営の姉妹園との交流が充実している。年2回以上のバスハイクを企画し、姉妹園や遠方の公園などに出かけている。園周辺は子どもが徒歩で移動できる範囲に交流できる保育園等の施設が少なく、小学校との交流も含め、どのような機会が持てるのかについては引き続き検討が必要課題と捉えている。</p> <p>地域交流の取り組みを通して子どもが地域と関わる機会を設けていく</p> <p>地域の方や第三者委員の方など園にゆかりのある方を運動会に招いて園児が職員以外の人と交流できる機会につなげている。園庭開放や地域のニーズにより、一時保育事業としてたんぼ組を開設し在園児以外の子どもの預かり在園児と一緒に過ごす取り組みを行ってきたが、利用者が減少している。また、コロナ禍の影響により、子育て広場は実施を見合わせていたので開催と内容の充実を再考することが課題である。園としては地域の高齢者施設との交流も検討しており、今後園が地域に根差した存在となるよう様々な取り組みを行きたいと考えている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	経営層はより良い保育を行うため、リーダーシップを発揮している	
内容①	就任後、短期間ながら経営層は自らの責任の下でリーダーシップを発揮している。思いついたことを実行に移す決断力があり、今年度から様々な試みを開始している。「シャッフル保育」は、実際に他クラスの保育に1日入り、担任外の子どもの様子やクラス運営を体験することにより、子どもや職員への理解を深め、園全体を見る力を養い、保育の質の向上にもつながっている。「ケース会議」では、子ども一人ひとりへのさらなる理解と共有ができています。また、業務内容を認め評価しつつ、同時に効率化についても考え、記録の簡略化を職員に提示している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの遊びや経験が豊かに展開されるよう工夫した取り組みがある	
内容②	大きな行事は年齢別で時間帯をずらして実施するなど、まだ注意や工夫が必要だが少しずつできることも増えている。コロナ禍の中でも、バスハイクやお泊まり保育は継続して実施してきた。5類になってから、夕涼み会を行った。保育時間内に実施し、3月に卒園した1年生を招き交流の機会を持つこともできた。また、幼児クラス中心に外部講師を招いたプログラムもある。ダンスリトミック、美術、体操など、子どもが楽しく経験することができている。保育者にとっても活動のヒントを得たり、運動会など園の行事では講師が協力して取り組んだりしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル③	ICT化を推進し、業務の見直しや効率化と保護者支援への活用に努めている	
内容③	6月より新たにアプリを導入し、登降園打刻管理、連絡帳、保護者連絡アプリなどを使い始めた。帳票類については今後、移行を見据えて実際に試しながら検討を重ねたい考えである。職員には、記録の大切さを理解しながらも分かりやすく、簡潔に書く意識を高め、文章構成や表現力の向上を目指すことを促している。将来的にはアプリを上手に活用し、事務負担軽減につながることも期待している。また、保護者のニーズもあるおたよりや日常の保育の様子を発信など、保育園の理解と子育て支援につながる取り組みを検討し広げて行く考えである。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	経営層のリーダーシップが発揮され、新しい取り組みを提案、実行している
	内容	今年度は諸事情により、途中から人員が入れ替わり新たな経営層でスタートした。コロナ禍の影響もありコミュニケーションが取りにくい状況が続いていた所、園長発信で「あの人のすてきなところ探し」の取り組みを全職員対象で行った。少人数で各人の良いところをたくさん出し合い、記録にまとめていつでも閲覧できるようにした。互いに意外な発見もあり、会話のきっかけにもなった。他にも「シャッフル保育」や「ケース会議」を取り入れたり、研修の工夫など新しい取り組みを試みる姿勢は、職員の同僚性を高め、チームワーク形成につながっている。
2	タイトル	子ども一人ひとりの理解を深めるため、保育を工夫して皆で取り組んでいる
	内容	子どもの確かな成長、豊かな発達を目指して一人ひとりに合わせた保育に取り組んでいる。気になる子どもについては、必要に応じて加配職員をつけ個別対応をしたり、クラスに合流したりするなど寄り添っている。全体での話し合いの他に「ケース会議」を取り入れ、子ども様子を確実に共有している。また、保育者が園全体を見る目を養い、クラス相互の理解を深めるための「シャッフル保育」を実施し、1歳児クラスを2グループ化して保育を行うなど、年齢や子どもの様子に合わせ職員が柔軟に対応し、連携を取りながら日々の保育を進めることができている。
3	タイトル	様々な視点から安全についての対策を考え、備えている
	内容	地震や火災などの避難訓練を毎月実施する他に、警察署と連携して交通安全指導や不審者訓練も行っている。近くにある川は、ハザードマップでは洪水指定はなく想定外であるが、子どもの安全、安心のため、万が一を考え水害に対する対策も備えている。避難手順を周知して、年に1回は垂直訓練を実施し、他に避難できる近くの高台までの経路を決めている。園内への浸水対策としては、繰り返し使える水囊も用意し、取り扱い方法を共有している。災害時の備蓄品は主に2階に保管し、他にも分散させるなど職員全体で確認し対策を取っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の理念、方針についてさらに浸透を図り、職員が一丸となり取り組みを進める
	内容	年度途中で体制が変わり、園運営の舵取りがなかなか軌道に乗れず、厳しい状況となった。保育について基本方針の確認を行い、指導計画に反映させた取り組みを行い、その振り返りを共有して確実に積み重ねられるよう取り組んできた。ただし、園の理念など、根幹となる考えや保護者支援の在り方を浸透させるための討議など、さらなる取り組みの余地を残している。職員が一丸となって保育ができる安定した環境を作るために、経営層の意向を中堅職員が理解して、他の職員への周知徹底ができる組織の基盤強化に丁寧に取り組むことを課題としている。
2	タイトル	職員の育成や意欲向上に向けた育成計画の充実に取り組む
	内容	組織の向上のためには職員一人ひとりの意識の向上が大切であると考えている。また、人は「納得して初めて行動する」ものとして、職員が納得できるように時間をかけてコミュニケーションを深め、保育実践の計画と実践、点検、評価、実践、改善について意見のやり取りが十分にできる職場環境を整えていきたいと考えている。人材育成の面では、組織全体への理解と意識を高め、各職層の職務内容と役割を共有し、様々な研修の実施していく必要がある。個別の育成計画を整え、成果を確認して反映させるなど、育成計画を充実させることを課題としている。
3	タイトル	子育て広場や一時保育を充実して地域親子への子育て支援を提供する
	内容	園庭開放、一時保育、園見学を通して地域の子育て家庭への情報提供や交流を図ってきた。現在は一時保育の参加者が減少している。これまで市の広報誌やホームページ、園外掲示板などで周知してきたが、より分かりやすく伝えられるよう、今年度はホームページのリニューアルに取り組んでいる。また、コロナ禍の影響で一時中断していた子育て広場を再開したいと考えている。取り組みの内容や情報発信方法について、より良いものにできるよう改めて検討をしながら、子育て広場や一時保育の充実を図ることを課題としている。